

ニ貢獻スルコト少カラザルモノトシテ推獎スベキモノデアル。

文學博士宇井伯壽君著印度哲學研究（全六卷）ニ對スル

授賞審査要旨

文學博士宇井伯壽君著印度哲學研究ハ、廣汎ナル印度哲學及哲學史ノ全體ヲ各部分ニ亘リテ精細ナル研究ヲ遂ゲ、且前人ノ研究ニ對シ嚴密ナル批評ヲ試ミタルモノナリ。

印度哲學研究全部六卷（三千七百八頁）ハ、大正十三年ヨリ昭和五年ニ至ル七年間ニ於ケル著者ノ研究四十三篇ヲ包含シ、ソノ内容ハ廣汎ナルモ、凡二大部分ニ分レ、印度六派哲學及其他ノ哲學ニ關スルモノ十三篇、佛教哲學及佛教史料ニ關スルモノ三十篇アリ、今之ヲ分類スルニ

一、印度六派哲學

二、印度論理學

三、根本佛教

四、大乘佛教

五、佛教論本考定

一 印度六派哲學ニ關スル論文

六派哲學及ソノ傍系ノ諸學派ニ關スル諸篇ハ、殊ニ著者ノ努力ノ作ト見ルベキモノ多ク凡十篇アリ。勝論派ハ正理派ト俱ニ著者が最モ力ヲ用キタル所ニシテ、殊ニ勝論派ニ於テハ從來之ニ關スル好著ナク、近年和蘭ノフワデゴン博士ノ著(六〇〇頁)ガ公ニセラレタルガ、著者ハ博士ノ著ヨリモ自己ノ稿本ガ遙ニ精密ナルヲ見テ、先ヅソノ勝論派ノ知識論(一・八)ヲ公ニセリト謂ヘリ。他ノ三篇(一・二)(一・五)(三・五)ニ於テモ亦同一ノ優勝點アルモノニシテ、殊ニ學派ノ成立時代及本經ノ編纂年代ノ如キハ、ソノ内容外形ニ於テ各學派ノ經典ノ研究ト相俟チテ佛教哲學ノ發達ヲモ考慮セザルベカラザルモノナレバ著者モコノ研究ニ適當ノ地位ニ在ルヲ見ル。論文中(四・六)「種々なる道」ハ印度十八種ノ學藝ヲ分類解説シタル要書ナルガ著者ハコノ難解ノ論本ヲ譯出シ、ソノ註記ニ於テ精細ナル批評的解釋(一四六頁)ヲ試ミタリ。

二 印度論理學ニ關スル論文

印度論理學ノ研究ハ兩部ニ分レ、六派哲學中ノ正理派ノ論理學(甲)ト佛教中ノ因明學(乙)トノ二類トス、コノ兩部ニ關スル論文凡十篇アリ。

コノ論文中(一・四)ニ於テハ先ヅ正理學派ノ十六諦ヲ詳解シ、コノ學派ハ一方於テハ勝論說ニ基キテ立說シ、他方ニ以テハ六師外道コリ起レル論理說ヲ集成セルモノナリトシ、之ニ依テ正理學派成立ノ年代ヲ考定シ、哲學方面ヨリハ正理派ノ成立ハ勝論經以後、佛教ノ成實論以前トシ、更ニ論理學ノ

方面ヨリハチャラカ本集(二・五)、佛教ノ方便心論(二・七)以後、龍樹著廣破經以前トシ、大凡西曆一〇〇—一五〇年頃ヲ以テ正理派成立ノ年代トセリ。而シテ六派中ノ相互關係ヲ示セバ、正理學派ハ六派哲學中ノ最新ノ成立ニ屬スレドモ、正理派ノ成立ハ六派經典中ノ中間ニ在ルモノトセリ。著者ハ(一・四)ノ問題ヲ解決スル爲ニ用キタル材料若クハソノ間ニ言及セル問題ヲ悉ク別ニ篇ヲ改メテ攻究シ、茲ニ(五・四)(二・五)(二・七)(一・二)及(一・六)(五・五)(五・六)(二・七)(二・四)ヲモ詳論スルニ至リタルガ、其中(五・四)ノ如キ、ソノ論證方法ノ發達ヲ論ジ正理派ノ論理說ヲ詳論セル點ニ於テ未ダ曾テ見ザル印度論理學研究ノ雄篇(二二二頁)ナリト謂フベシ。殊ニ(二・五)(二・七)ニ於テチャラカ本集ノ論理說ヲ譯出解説シ且ソノ梵文原本ヲ校訂出版セルハ學界ニ貢獻セル所多大ナリ。之ト相待チテ(五・五)ニ於テ陳那以前ニ於ケル佛教ノ論理說ヲ考究シ因明發達ノ史實ヲ詳述シ、(一・六)(五・六)(二・七)ニ於テ因明相違、正理門論、方便心論ヲ詳解シ、微ニ入り細ヲ穿チ因明ニ關スル諸問題ニ於テ殆ド餘ヌ所ナキニ至レリ。

三 根本佛教ニ關スル論文

根本佛教及コレヨリ出テタル佛教思想發達ヲ研究セルモノ凡十篇アリ。コノ諸篇ニ於テ三寶、四諦、八聖道、十二因縁ノ大體ハ論究シ盡サレタルガ一面ヨリ見レバ著者ノ巴利語佛教原典研究ノ結果ヲ集成シタルモノニシテソノ所見往々前人未發ノ境地ニ進入セルモノアリ。

四 其他佛教ニ關スル論文

其他佛教ニ關スル論文凡十一篇アリ。コノ諸篇ハ何レモ當該方面ノ研究ニ向ツテ貢獻スル所少カラズ。今殊ニ從來ノ所說トソノ見ヲ異ニセル一例ヲ舉グレバ、(二・一)ニ於ケル佛滅年代ノ考定ハ從來ノ諸說ト全クソノ趣ヲ異ニシ、著者ハ大乘系ノ諸經論ト小乘經ノ諸系論トニ共通ナル阿育王年代ヨリ立論シ西曆紀元前三八六年ヲ以テ佛滅年代トシ、コレニ依リテ佛滅紀元ニ向ツテ一大問題ヲ提起セルモノト謂フベシ。

五 佛教論本考定ニ關スル論文

一切經中異名異譯ノ論本ニ就テハ精細ナル批評的考究ヲ要スルハ論ヲ俟タズ。著者ハコノ點ニ於テ用意周到、先ヅ論本對照ニ依テ明細ニ品目類似ノ諸項ヲ示シ、精密ナル考證ニ依リソノ同一論本ナルコトヲ明示セリ。ソノ論文凡五部何レモ大乘佛敎學ニ逸スベカラザル要書ナリ。

以上全五類論文ヲ包含セル印度哲學研究ハ更ニ之ヲ著者ノ原典研究力ノ方面ヨリ考察スルコトヲ得ベシ。原本ノ批評的校訂刊出ノ方面ニハ (1) チャラカサンヒタ論理說(二・五) (2) フラストナーナベード學藝總論(四・六) (3) 譯出ノ方面ニハ (2) チャラカサンヒタ論理說(二・五) (3) フラストナーナベード學藝總論(四・六) (4) 阿育王石柱法勅 小石柱法勅 磨崖法勅 小磨崖法勅全刻文譯出(四・三)アリ。論本ノ原質的考定ノ方面ニハ (5) 中邊分別論、十八空論、成無性品、三無性論、顯識論、轉識論、攝決擇分、決定藏論(以上第六卷)アリ。因明論

本ノ原質の解説ノ方面ニハ正理門論(五・六)方便心論(二・七)ノ詳解アリ。コノ諸篇ノ如キハ、ソノ研究ノ方法、態度、該博ナル識見、原典討究ノ力量ニ於テモ、容易ニ他者ノ追隨ヲ許サザルモノアルヲ見ル。

以上印度哲學研究ノ各部分ニ於ケル論文ハ、ソノ斷案ニ於テ尙ホ異說アルモノアルベキハ自然ナルモ、詳密ナル批判的研究ニ於テ著者ノ諸論究ハ學界ニ寄與スル所極メテ大ナルモノアリ。

理學博士増本量君ノ強磁性元素及ビ其合金ノ物理冶金學的

研究ニ對スル授賞審査要旨

本研究ハ鐵、ニツケル、コバルト等ノ強磁性元素及ビ其合金ノ物理冶金的研究ニシテ六項ヨリ成ル。其第一項ハコバルトノ變態點ノ發見ト之ニ關連セルコバルト、ニツケル及ビコバルト、鐵ノ各二元系平衡圖ノ變更ニ關スル最モ重要ナルモノ、一ナリ。第二項ハ鐵ト炭素トノ合金即チ鋼及ビ鑄鐵ノ電氣傳導率ト熱傳導率トヲ同一ノ試片ニ就テ測定セル結果ナリ。又第三項ハコバルト、ニツケル二元系ニ就テ磁氣ノ強サ、磁歪、電氣傳導率等ノ諸恒數ノ測定セルモノニシテ、第四項ハ鐵、ニツケル、コバルトノ三元系ノ多數試料ニ關スル磁氣ノ測定結果ナリ。第五項ハ上記三元系各試料ニ關スル熱膨脹係數ノ測定ニシテ其結果超インバールノ發明トナリ、學術上及ビ工業上頗ル重要ナル合金ヲ得タリ。最